除害施設設置届出書

和曆〇〇年〇〇月〇〇日

東松山市上下水道事業

東松山市長宛て

東松山市下水道条例第9条の4の規定により、除害施設の設置について、次のと おり届け出ます。

工場又は事業場の名称	㈱○○○○ 東松山工場
工場又は事業場の所在地	東松山市大字新郷〇〇〇〇番地
△工場又は事業場の概要	別紙のとおり。
△除害施設の構造	別紙のとおり。
△除害施設の使用の方法	別紙のとおり。
△下水の量及び水質	別紙のとおり。
△用水及び排水の系統	別紙のとおり。

備考

△印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、 表等を利用すること。

1・工場又は事業場の概要

イ 汚水排出施設の設置場所

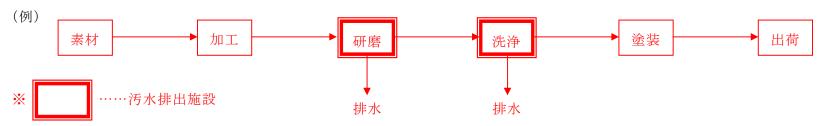
添付第 ○ 図のとおり。(図中の汚水排出施設は赤線で記入すること。)

ロ 汚水排出施設の名称、型式、構造、主要寸法及び能力並びに当該汚水排出施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置 添付第 〇 図のとおり。

汚水排出施設の名称	型式	構造	主 要 寸 法 (たて×よこ×高さ (深さ))	能力	備考
研磨施設	○○型	鉄製	$\bigcirc\bigcirc$ cm $\times\bigcirc\bigcirc$ cm $\times\bigcirc\bigcirc$ cm	○○kg/時間	
部品修理作業		コンクリート床	$\bigcirc\bigcirc$ cm $\times\bigcirc\bigcirc$ cm $\times\bigcirc\bigcirc$ cm	○○個/日	主要寸法は、作業室の広さ

ハ 汚水排出施設を含む操業の系統

添付第<u>○</u>表のとおり。



ニ 汚水排出施設の使用時間間隔及び1日当たりの使用時間並びにその使用に季節的変動がある場合には、その概要

汚水排出施設の名称	使用時間間隔	1日当たりの使用時間	季節的変動の概要	備考
研磨施設	8:00~17:00	8時間	なし	
部品修理作業	8:00~15:00	6 時間	冬場作業少ない	

ホ 汚水排出施設を含む作業工程において使用する原材料(消耗資材を含む。)の種類、使用方法及び1日当たりの使用量

汚水排出施設の名称	原材料の種類	使 用 方 法	1日当たりの使用量	備考
研磨施設	研磨剤	バリ取り研磨用	3 0 k g	
部品修理作業	アルカリ性脱脂剤	表面処理用	1 0 k g	

へ 汚水排出施設の使用時において、当該汚水排出施設から排出される汚水の水質(当該工場又は事業場から排除される下水に係る水質の基準が定められた事項に限る。)の通常の値及び最大の値並びに当該汚水の通常の量及び最大の量

単位:mg/l(pH,ダイオキシン類を除く)

																									1 122 .	mg/1	(1211)	1 . 4 ,	* * /9	(C //	• /
汚水	排出施設	没の名和	尓	汚水((m³/		温(%	度 C)	p	Н	В	OD	S	S			/抽出! 動植物		窒	素	炸	类	ヨウ素	消費量	フェノ	ール類	ģ	嗣	亜	鉛	鉄(溶	解性)
			ù	重常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
バレ	ル研り	磨施詞	党 4	0	60							900	800	50	300																
部品	修理	作業		5	10									10	20																
マン(溶角		ク	ПΔ	フ	ッ素	カド	ミウム	シフ	アン	有核	幾燐	£	沿	6価ク	ロム	Ł	素	水	:銀	アルキ	ル水銀	P	СВ	トリクロ	ロエチレン	テトラクロ	ロエチレン	ジクロロ	コメタン	四塩化	上炭素
通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
1, 2-ジク	コロエタン	1, 1-ジク	ロロエチレン		<-1, 2- ロエチレ ン	1,1 トリクロ	,1- ロエタン	1,1 トリクロ	,2- ロエタン	1, ジクロロ		チウ	ラム	シマ	・ジン	チオベン	ンカルブ	ベン	ゼン	セリ	レン	ほ	う素	1, 4-ジ	オキサン	アンモニア性 硝酸窒	, 亜硝酸 素含有	ダイオキ (pg-T			
通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大

ト その他汚水排出施設の構造及び使用の方法について参考となるべき事項

なし

別紙

No. 4

2・除害施設の構造

イ 除害施設の設置場所

添付第 ○ 図のとおり。(図中の除害施設は赤線で記入すること。)

ロ 除害施設に係る工事の着手及び完成の予定年月日並びに使用開始の予定年月日

工事着手予定年月日	工事完成予定年月日	使用開始予定年月日
和暦〇〇年〇〇月〇〇日	和暦○○年○○月○○日	和暦○○年○○月○○日

ハ 除害施設の種類、型式、主要寸法及び能力並びに汚水の処理の方式

種 類	型式	構造	主要寸法	処理能力	処理方式	備考
凝集沈殿施設	〇〇式〇〇型	鉄 製	$\bigcirc\bigcirc\times\bigcirc\bigcirc\times\bigcirc$ m	5 0 m³/日	凝集沈殿法	
				(m³/日)		

ニ その他除害施設の構造について参考となるべき事項

なし

別紙 No. 5

3・除害施設の使用の方法

イ 汚水の処理の系統

添付第 ○ 図のとおり。

(例)



ロ 汚水の集水及び除害施設までの導水の方法

添付第<u>○</u>図のとおり。(集水及び導水の経路を、**赤線**で記入すること。)

口径100mm塩ビ管により、除害施設に導水する。

ハ 除害施設の使用時間間隔及び1日当たりの使用時間並びにその使用に季節的変動がある場合には、その概要

除害施設の名称	使用時間間隔	1日当たりの使用時間	季節的変動の概要	備考
研磨排水処理装置	8:00~18:00	10時間	なし	

ニ 除害施設において中和、凝集、酸化、その他の反応の用に供する使消耗資材の1日当たりの用途別使用量

除害施設の名称	用途別	消耗資材の名称	1日当たりの使用量	備考
研磨排水処理装置	凝集用	消石灰	2 0 k g	
		塩化第2鉄	5 k g	
		高分子凝集剤	10 k g	
	pH 調整用	硫酸	20 k g	
		苛性ソーダ	2 0 k g	

ホ 除害施設の使用時における当該除害施設による処理前及び処理後の汚水の水質(当該工場又は事業場から排出される下水に係る 水質の基準が定められた事項に限る。)の通常の値及び最大の値並びに当該汚水の通常の量及び最大の量

(1)処理前

単位:mg/l (pH,ダイオキシン類を除く)

																									1 122	1110/1	(pii, /	1 . 4	インン	W. C 1/1	$\stackrel{\sim}{-}$
除	害施設。	の名称	5	汚水((m³/		温(%	度 C)	p	Н	В	OD	S	S		<u>、キサン</u> 由類	/抽出 ² 動植物		窒	素	炸	粦	ヨウ素	消費量	フェノ	ール類	Í	同	亜	鉛	鉄(溶	解性)
				通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
研磨	排水处	1理装		45	70							900			300																
	/ガン 解性)	ク	ロム	フ	ッ素	カド	ミウム	シフ	アン	有相	幾燐	ŝ	台	6価ク	ロム	Ł	素	水	.銀	アルキ	ル水銀	PO	СВ	トリクロロ	ロエチレン	テトラクロ	ロエチレン	ジクロロ	コメタン	四塩化	上炭素
通常	最大	通常	最为	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
1, 2-53	ロロエタン	1, 1-ジク	ロロエチレン		<-1, 2- ロエチレ ン		l, 1- ロエタン	1,1 トリクロ		1, ジクロロ	3- プロペン	チウ	ラム	シマ	ジン	チオベン	ンカルブ	ベン	ゼン	セリ	ンン	ほ	素	1, 4-ジ	オキサン	アンモニア性 硝酸窒	, 亜硝酸 素含有	ダイオキ (pg-T			
通常	最大	通常	最为	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大

(2)処理後

単位:mg/l (pH,ダイオキシン類を除く)

	- 11 11		,		の量	ì		度、	р	Н	В	OD	S	S		トキサン			窒	素	ţ	*	ヨウ素	消費量	フェノ			同		鉛	鉄(溶	
除:	害施設	の名す	5	通常	/日)	:番/	⊕ T.	,		最大	活告	是士	通常	早十		由類 最大		勿油脂			活告	最大	温骨	是十	活告	是十	活告	早十	通常		活告	最大
				进市	取八	皿	rto .	取八	进市	取八	进市	取八	进市	取八	进市	取八	进市	取八	地市	取八	进市	取八	进市	取八	进市	取八	迪市	取八	进市	取八	进市	取八
研磨	排水处	D.理装	置	45	70								10	30	1	3																
	/ガン 解性)	Ź	' П Д		フッ素	カ	ドミ	ウム	シフ	アン	有相	幾燐	£	台	6価 /	ロム	Ł	素	水	:銀	アルキ	ル水銀	P	СВ	トリクロロ	ロエチレン	テトラクロ	ロエチレン	ジクロロ	コメタン	四塩化	上炭素
通常	最大	通常	最	大 通	常 最大	: 通信	常:	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
1, 2-ジク	ロロエタン	1, 1-9	クロロエチ		/ス-1,2- ロロエチ! ン		1, 1, 1 クロロ	1- 1エタン	1, 1 トリクロ	,2- ロエタン		3- プロペン	チウ	ラム	シマ	・ジン	チオベ	ンカルブ	ベン	ゼン	セ	レン	ほ	素	1, 4-ジ>	オキサン	アンモニア性 硝酸窒		ダイオキ (pg-T			
通常	最大	通常	最	大通	常 最大	: 通位	常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大

別紙 No. 9

へ 汚水の処理によって生ずる残さの種類及び1月間の種類別生成量並びにその処理の方法の概要

残さの種類	1月間の生成量	処理の方法の概要	備考
脱水汚泥	0.8 t	フィルタープレスで脱水し	汚泥収集運搬業者
	(含水率80%)	た汚泥は、ドラム容器に詰め自	○○産業㈱
		社内に保管。	〇〇市〇〇〇〇番地
		産業廃棄物処理業者に委託	汚泥処分業者
		処分。	㈱○○産廃センター
			○○市○○○○番地

- ト 汚水を公共下水道へ排除する方法(排出口の位置及び数) 排出口の位置は添付第<u>○</u>図のとおり。 排出口の数は合計<u>2</u>か所。
- チ その他除害施設の使用の方法について参考となるべき事項

汚水処理施設設計・施工業者: ㈱○○プラント ○○市○○町○○番地

汚水処理施設メンテナンス :○○保全㈱ ○○市○○町○○番地

4・下水の量及び水質

イ 公共下水道への排出口における下水の通常の量及び最大の量並びに当該下水の水質(当該工場又は事業場から排除される下水に 係る水質の基準が定められた事項に限る。)の通常の値及び最大の値。

単位:mg/l (pH,ダイオキシン類を除く)

																									1 124		(1211,)	1 :4 1	ンノ男	(C M	` /						
排	排出口の名称			汚水の量 (㎡/日)		汚水の量 (㎡/日)						温 (°	度 C)	p	Н	В	OD	S	S			/抽出! 動植物		窒	素	均	粦	ヨウ素	消費量	フェノ	ール類	Î	嗣	亜	鉛	鉄(溶	解性)
		ì	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大							
	No.1 (工程系) No.2 (生活系)			5 2	70 4							10	30	1	3																						
	ガン 解性)	ク	ロム	フ	ッ素	カド	ミウム	シフ	アン	有核	幾燐	鱼	台	6価ク	ロム	Ł	素	水	.銀	アルキ	ル水銀	PO	СВ	トリクロ	ロエチレン	テトラクロ	ロエチレン	ジクロロ	コメタン	四塩(上炭素						
通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大						
1,2-ジク	ロロエタン	1, 1-ジク	ロロエチレン		<-1, 2- ロエチレ ン		,1- ロエタン	1,1 トリクロ		1, ジクロロ		チウ	ラム	シマ	ジン	チオベン	ンカルブ	ベン	ゼン	セリ	ンン	ほう	う素	1, 4-ジ	オキサン	アンモニア性 硝酸窒	, 亜硝酸 素含有	ダイオキ (pg-Ti									
通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大						

ロ その他公共下水道に排除される下水の量及び水質について参考となるべき事項

なし

別紙 No. 1 1

5・用水及び排水の系統

イ 用水及び排水の系統図

添付第<u>○</u>図のとおり。(用水系統は**青線**で、排水系統は**赤線**で記入すること。)

口 用途別用水使用量

用 水 別 (㎡/日)												
上水道	道 :	也 下 水	その他()		回収	水	Ź.	금 計			
47									47			
用 途 別 (㎡/日)												
ボイラー用水	原料用水	製品処理用水	洗浄用水	生活雑用水	冷却用水	温調用水	その他	()	合 計			
			30	2					47			

6・その他の参考事項

業 種 名	○○○製造業	操業年月日	昭和〇〇年〇月〇〇日	事業場面積	3,000 m²			
主要製品名	0000, ΔΔΔ	資本金 〔円〕	1億5,000万					
生産高〔円/月〕	12,000 万	従業員数〔人〕	全社 400 人	従業員数〔人〕	当該事業場 80 人			